

ぶんぶくちやがま

ぶんぶくちやがま

(日本のむかし話)

むかし、ある寺のおしろうさんが、古い茶がまを買ってきました。

火にかけると、茶がまが「あつい、あつい。」とさけんで、たぬきの頭と足を出しました。茶がまは、たぬきが化けたものだったのです。

おどろいたおしろうさんは、茶がまを古道具屋さん^{ふるどうぐや}にゆずりました。

たぬきは、古道具屋さん^{ふるどうぐや}に言いました。

「たすけてくれたおれいに、つなわたりの芸^{げい}をお見せします。」
たぬきの芸^{げい}はだいひょうばんになり、たくさんの人が見にきました。

1 おしろうさんは、何を買ってきましたか。

古い



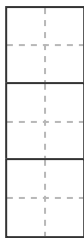
2 火にかけると、茶がまはどうなりましたか。

ア わってしまった。

イ たぬきの頭と足を出した。

ウ お湯^ゆがわいた。

3 茶がまは、何が化^ばけたものでしたか。



4 たぬきが芸^{げい}を見せたのは、どうしてですか。

ア 古道具屋さん^{ふるどうぐや}へのおれいのため。

イ おしろうさんにたのまれたから。

ウ おなかがすいたから。